



## 地域と共に歩む 弘前大学ボランティアセンター

弘前大学ボランティアセンター：副センター長 イモンジン 季永俊

弘前大学ボランティアセンターは、2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに設立されました。被災地の皆様の力になりたいという学生の想いを被災地に届けたいという教員有志によって発足したものであります。設立目的は、自治体や各種市民団体と弘前大学との間に立ち、ボランティア派遣を円滑に行うための仲介機能を果たすことであります。このような活動を通して地域社会に貢献することを目指しています。

震災直後は、大津波で甚大な被害に見舞われた岩手県九戸郡野田村での災害支援・交流活動が主な活用でした。具体的には、瓦礫撤去や支援物資の仕分け、茶話会、学習支援などです。当センターの活動の大きな特徴は、大学・大学生だけではなく、弘前市、弘前市民が一緒になって「チーム・オール弘前」で活動を行っていることです。被災地支援・交流活動を通して、市民との協働の重要性や初動活動の大切さ、そして寄り添うこと、忘れないことの意味を学びました。このような被災地での教訓を活かし、地域内でもさまざまな活動を行っています。

その一つは、生活困窮世帯の児童を対象に行っている学習支援プログラム「あっぷる〜む」です。この活動では、学生ボランティアが子供たちのお兄さんやお姉さんとなって、一緒に宿題をしたり、子供たちの相談にのったりなど、子供たちに寄り添って健やかな成長と、子供たちの学力向上を通して貧困の連鎖を断ち切る目的で行うものであります。その他、青森県立子ども自立センターみらいでも学習支援を実施しています。二つ目は、除雪ボランティア活動です。この活動は冬でも快適な市民生活を支えるために行うものであります。

その他、弘前さくらまつり車いす応援隊、よさこい津軽、愛の広場レクリエーションの集いなどの自治体や市民団体などからのボランティアニーズに沿って、ボランティア学生の派遣なども行っています。また、ボランティア活動への理解と積極的な参画を促すため、市民ボランティア講座や活動報告会などを開催しています。以上の活動を通して、より豊かで住みやすい地域づくりに協働し、地域と共に歩むボランティアセンターを目指しています。

+++++

弘前大学ボランティアセンター

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 大学会館2階 (月～金 10am～3pm)

TEL : 0172-39-3268 FAX : 0172-34-5251

HP <http://huvv.net/> mail : [huvv@hirosaki-u.ac.jp](mailto:huvv@hirosaki-u.ac.jp)



ほっと・ほらんていあ「犬と一緒にボランティア」に参加しました。

3匹の犬「ひらり」と「イチゴ」と「もみじ」も参加してくれました。午前中に、青森県警察オープンキャンパス2018で警察犬の活動を紹介した際に「もみじ」はお留守番で置いてきぼりにされたことで、少しいじけていたそうです。でも、午後は参画センターに連れて来てもらって、デモンストレーションで捜索する様子を披露することができて、自分の役割を果たせたと思ったのか、床に寝転んでお腹をめいっぱい見せて体全体で喜びを表現して、とても満足気でした。3匹それぞれの個性も垣間見ることができて楽しい一時でした。

人間と同じだと思いました(笑)。

北東北捜索犬チームのHPです。 <http://www.sousakuken.com>



# あっぷるカフェ

## ～認知症になっても安心して暮らせる街のために～



「いちに！さんし！」朝からみんなで体操をする元気な声がこだましています。

ここ土手町（コミュニティパーク）にある認知症カフェ（以下あっぷるカフェ）には幅広い年齢層の方々が参加しています。あっぷるカフェが立ち上がったのは、平成26年11月、青森市で認知症を考える全国研究会が行われた際に、当時、若年性認知症だった患者さんの「認知症の人が気軽に立ち寄れる居場所が欲しい」という意見がきっかけでした。特別養護老人ホームサンアップルホームの方々が有志を募り、平成27年1月に初めて開催し、当初の認知症カフェの参加者から名称を募集し、現在のあっぷるカフェが誕生しました。

今回で第83回を数えるこのあっぷるカフェの活動内容は、主に「学び・楽しみ・活動」の三要素を主軸とし、「学び」では毎回多種多様な講師の方を招き、認知症への不安や悩みを軽減するよう工夫した講話を展開しています。「楽しみ」では、体操だけでなく、季節の手芸制作も行っています。「活動」は認知症の方が菜園に出向き野菜を育てています。

今回はあっぷるカフェの運営に携わるサンアップルホームの大家千佳子さんと渋谷千代子さんにお話を聞くことが出来ました。渋谷さんは「あっぷるカフェをやっていて良かったことは、初めて来てくれた人が次回以降も継続して訪れてくれること」と笑顔で話してくれました。同時に認知症を取り巻く現状は深刻です。少子高齢化に伴い今後高齢者の三人に一人が認知症になると言われています。大家さんは「認知症を考えるうえで重要なのは、家族同士の関わりで、認知症患者本人だけでなく家族の方の理解が必要不可欠なので、理解を深めていくツールとしてあっぷるカフェが寄り添っていければ」と話しています。

あっぷるカフェは、毎月第一週・第三週土曜日に開催しています。認知症を考える一つのきっかけとして是非参加してみたいかがでしょうか？

ボランティアスタッフ：石岡佳樹

## 参加者募集！

## 青森プロボノチャレンジ

「プロボノ」とは日ごろの仕事で培った経験やスキルを活かしたボランティア活動のことです。様々な業種・職種の方が参加し、NPO等のお悩みに応えていきます。

まずは説明会にお越しください（参加費：無料）

弘前会場：7月25日（水）18時半～20時 ヒロコ3F 多世代交流室2

「プロボノって？」「どんな活動をするの？」「青森プロボノチャレンジは何をするの？」

「参加方法は？」など詳しく説明します。

## 豆知識



ビルクリーニング技能士の豊田章吾さんに聞く掃除に関するエトセトラPART3  
今回のテーマは「タオルの使い方」です。

- ・タオルは大きさに応じて、2つ折り、4つ折り、8つ折りで使いましょう
- ・持ち方は折り目を上にして手のひらに乗せ、親指と人差し指ではさんで持ちます。
- ・拭き取って汚れがついた面は裏返して常にきれいな面を使うと、汚れの再付着を防げます。
- ・汚れ具合にもよりますが、最大4面、8面、16面使え、バケツで洗う手間が省け、時短につながります。
- ・鏡等を拭く時は、絞ったタオルと乾いたタオルを重ね一緒に絞ると、ちょうど良い湿り具合になり、空拭きが省け便利です。



## 編集後記



サッカーワールドカップ（W杯）ロシア大会は県出身の柴崎岳さんが出場していたということで応援にも力が入った方が多かった事と思います。

『エルミタージュ美術館の猫が予言的中』・・・私が「ふくろう通心」のスタッフに加わった6年前の37号に『エルミタージュ美術館で働く猫』を掲載した関係で予言中のテレビ映像が猫を映し出した瞬間、長年会いたかった友達に会えたようで嬉しい気持ちになりました。

ボランティアスタッフ：小山



＜制作＞市民ボランティアスタッフ  
＜制作協力＞弘前市ボランティア支援センター  
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市民参画センター内  
TEL: 38-5595 FAX: 36-1822  
HP: [www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/](http://www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/)  
情報紙についての意見・感想をお待ちしております。